

第2章 情報社会の影の部分と子どもたちを取り巻く環境

第3節 パソコンと子どもたち（主に家庭での利用）

2.3.1 家庭に普及するパソコン

各家庭へのパソコンの普及率が70%ほどになり、子どもたちが家でパソコンに触れる機会も年々多くなってきた。携帯電話はどの子も必ず飛びつくパーソナルな機械であるのに対して、パソコンは、今のところ家庭に1台というところが多い。

子どもたちのパソコンとの付き合いの度合いは、親の考え方によってさまざまなようである。我が家ではパソコンは子どもたちにとってすっかりパーソナルなものになっている。高校生になった時、子どもたちにノートパソコンを与え、それぞれの部屋をLANで結んだ。子どもたちは、メール、ホームページ作り、情報検索、音楽、そして学習にもパソコンを使いこなしている。

私は、パソコンのメンテナンスを得意分野としているので、様々なパソコントラブルを解決するために、多くの家を訪問した。そういう中で感じたのは、親が仕事や趣味でパソコンを使い、子どももいつもそばに来ていて、親のやるのを見ながら、パソコンに強くなっていく家庭。また、親は積極的に使っているけど、子どもは携帯の方がいいと言ってあまりパソコンによって来ない家庭。そして、家族のそれぞれが、必要な時、それ相当のソフトを使ったり、ネットを使ったりする家庭。小学生までは、親の方がコンピュータに詳しくだったが、中学生にもなると、子どもの方が親の能力を超えてしまうという結果も調査からでてきた。知恵がついた中学生になると、自分のユーザーにパスワードをつけ、親も子どもがどんなことにパソコンを使っているのかさえ、把握できなくなっているという報告もある。

また、小学校でもパソコンを教える時代になっている。また、いくつかではあるが幼稚園でもパソコンを使った勉強が行われているという。親にとっては、「子どもがこれから勉強していくのにパソコンぐらいあったほうがいいんじゃないか。」という考えも出てくる。調査によると約6割の家庭が、子どもにパソコンは「非常に必要」、または「やや必要」と答え、「全く必要ない」または「あまり必要でない」の2割弱を大きく上回っている。このようにコンピュータに対する親の考えも時代とともに変化を見せ、子どもにパソコンを買い与える家庭も増えてきた。

以上例を挙げたように、子どもたちの家庭での環境によって、パソコン保有状況も、子どもたちのスキルもモラルの押さえも千差万別となっている。

このようにパソコンに対しての親の温度差も大きく、子どもたちの意識の違いも大きい。家庭での利用については、家庭に委ねるしかないのであるが、次のようなことを押さえておくことが大切である。

2.3.2 パソコンについてのルールを作る。

利用時間や利用目的、設置場所など家族で話し合って決める。設置場所については、特に小学生や中学生のうちは、自分の部屋に設置せず、リビングなど家族の共用の場所に置くのが望ましいと考える。

2.3.3 時々声かけをしてパソコンのことが家族の共通話題となるようにする。

リビングにパソコンがあれば、自然とパソコンに関わる話題も出てくるかと思うが、子どもがどんなことにパソコンを利用しているのか、また、ネット上で、困っていることがないかなどのコミュニケーションを大切にしたい。また、近年ネットを介して性や金銭などのトラブルが発生していることも話題に上げ、困ったことがあればすぐに親に相談できるような体制にする。

2.3.4 パソコンの扱いを子どもだけのものにしない。

子どものパソコン操作のスキルアップは目を見張るものがあるであろう。子どもたち同士ネット上で情報交換をし、興味のあるホームページアドレスを交換したり、デスクトップの壁紙やWINDOWSの設定を変えたりなどの技術的なことも覚えるであろう。しかしながら、思春期という発達段階から何でもオープンにするということから、自分というものが確立し、他に見せたくないもの、知られたくないものも出てくる。子どもにパソコン操作を任せきりにしてしまうと、しだいに、ログインにパスワードをかける。WEBブラウザの履歴を消す。メールや文書にパスワードを書けるなど操作も覚えるだろう。このようなことをするかしないかはそれぞれであろうが、親に知られたくないものを隠し、重大な事件・事故に巻き込まれてしまわないとは言い切れない。

せっかくのパソコンである。入門誌などをもとに、子どもと一緒に学んでいくことを大切にしてほしい。インターネットとゲーム、それに年賀状だけでは、使い方としては寂しい。親も勉強して、仕事や趣味にコンピュータをおおいに役立ててもらいたいものである。

2.3.5 情報モラルについてのどんなものがあり、どのように大切なのかを親も勉強していく。

インターネット、電子メール、チャット、掲示板、出会い系サイトなどという言葉は昨今のニュース報道などでもよく登場し、日常語になりつつある。ところがインターネットは実際どのようなものなのか、また電子メールはどのように送られるのか、経験的にわかっているのは、まだ多いとは言えない。それぞれは、便利なところがあってこれだけ、発展してきたわけであるが、いいものの裏には、必ず悪いものが見え隠れしている。人類長年の夢であった宇宙への夢が少しずつ実現に近づく一方、それは軍事衛星、宇宙からの核ミサイルの発射などの開発にもその技術が使われるように。後の章で詳細に挙げるが、コンピュータは他の道具と違って、人間の頭の一部になる。したがって、ものの考え方、判

断の価値基準など、今まで考えもしなかったことで、子どもたちの成長に関わってくる
ことがある。そのような中、子どもたちが有害な情報に出会い、影響を受けることも十分に
考えられる。益々発展するであろう情報化社会の中で、コンピュータを正しく使うことが
非常に強く求められている。情報モラルは、このような中、子どもたちにしていること、
してはいけないこと、ネットのこわさなど、ネット社会で活躍する子どもたちが知ってお
かなければならないルールであり、倫理である。保護者においても、今ネット上で、ど
のようなトラブルが予想されるのか、トラブルに巻き込まれないためには、子どもたちに
どのようなことを注意していけばよいかなど、知識として身につけておく必要がある。

後の章で述べるが、学校においては、インターネットは調べ学習を中心に使っているが、
家に帰ってからの子どもたちのインターネットの利用は全く異なる場合が多い。アフター
スクールインターネットと言われるゆえんである。子どもたちには、学校を離れてのイン
ターネットですべて別な世界を歩んでいることもある。わが子が、パソコンとどのような付
き合いをしているのかを把握しておくことは大切である。